

2023年度 学校法人 三幸学園 仙台ビューティーアート専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 蒲生 康子

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 村松 千秋

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン、組織を活性化できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

2023年度は、「毎日行きたい学校づくり」を教務の基本軸として考え生徒指導を行う。

・明るい学校 ・挨拶ができる学校 ・居心地の良い学校 ・充実感のある学校 ・自分の夢が叶う学校
さらに現場力を高めるべく各企業様やサロンオーナー様と連携し現場に直結した授業を行う。

【教務ゴールイメージ】

- ・目指す人材育成像：素直な心・高い意欲を持ち続け、自ら考え行動することで社会に貢献する人材
- ・素直な心：返事ができる、意見を受け入れて吸収ができる
- ・感謝の気持ち：感謝を言葉や態度で表せて「ありがとう」が言える
- ・高い意欲：まずはやってみようチャレンジできる、目標を持ち目標に向かって努力する向上心がある

○学習環境

コロナ渦も明け、後期からはすべて対面授業へ戻した。

そのため、毎日学校へ来て勉強するためのルーティンづくりや、目的・目標・ゴールを見据えた授業の工夫が必要だと感じた。

○ITスキル

VR 機材を導入して実技の修得スピードアップを図った。デジタルテキストアプリを使用し、国家試験筆記問題対策を AI がサポートしながら運用。結果は、導入前に比べると修得スピードは上がったが、国家試験の合格率向上のためにより修得スピード上げることが課題。デジタルテキストに関しては、運用がまだ不慣れな部分があるため、的確にスケジュールを組んでいくなどさらに改善が必要。

○現場力を高める授業

株式会社友美様(美容実践授業)、ガモウ株式会社様(教材納入、コンテストや講演会など美容業界の情報提供)、小林豊子きもの学院様(着付け授業)、株式会社 Lico 様(美容実践・サロンワーク)、7ブリッジ様(サロンワーク)など企業様との連携を継続し現場に直結した授業を行った。

② 学校関係者評価委員会コメント

村松委員：現在所属する生徒は、コロナウイルスが流行している時期に中学校生活を送っているため、毎日対面の授業を受けることに慣れていない。また、登校したいという気持ちがあっても、疲れやモチベーションの低下につながりやすい傾向がある。一方、デジタルに関してはスキルが高く、独自でプログラミングを行う生徒もいる。しかし、デジタルに関して疎い生徒もいるため、授業展開の難しさを痛感している。

仙波委員：コロナ禍で対面に慣れていない生徒は休みがちであった。コロナ禍が明けると改善傾向であるため、これからの新卒者は明確な目標を定めるなど対策を徹底していく。

遠藤由希委員：相手とのコミュニケーションの密度をいかに高めるかが重要である。加えて、明確な目標を持つことで、意識向上を図るべきである。

宮下委員：コロナウイルス蔓延時にご飯やみそ汁を各自で盛りつける等の制度改正を行ったが、遠慮して食が細くなる生徒がいた。今年からは、イベント回数を見直しつつ楽しい学生生活を送れるようサポートしていく。

遠藤健委員：人との接し方ひとつひとつがシビアな状況の中、IT促進や果敢な企業連携活動は好印象。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

- ・目指す業界では、「自ら考え行動し、答えのない課題に答えを出してく力」が求められるが、現在その力が足りない。そのため、現場とのギャップが生まれ就職後の離職が見られる。
- ・コロナ渦では個人での取り組みが多かったからこそ、チーム力(団結力)を上げる必要があると感じた。

② 今後の改善方策

- ・考えて行動するために、日々のスケジュールは手帳等で管理し、クラスルーム・sanko ゲートなどの情報伝達アプリで自ら情報の管理取得をしていくよう指導していく。
- ・チームで力を発揮できるよう週1での打ち合わせを行うなど、積極的に教員と生徒の連携強化をしていく。
- ・卒業後もサロン訪問をし、卒業生の状況をヒアリングするなどサロン様との連携を深める。

③ 特記事項

- ・業界講話セミナーや学外実習等で現場とのギャップをなくし、スムーズに就職活動を進めて行けるような流れを作る。

④ 学校関係者評価委員会コメント

遠藤健委員:生徒ひとりひとりの気持ちに寄り添うことが重要。加えて、サロン以外に就職希望の生徒への対応を広げていくことも必要である。

仙波委員:生徒第一で個々の考えに寄り添い、多様化する社会で業界も個別対応できるような仕組みを考えて行かなければいけない。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

- ・ICTの活用はできているが、より積極的に使用していくにはペーパーレス化を進める改善が必要。
- ・地域社会等へのコンプライアンス体制を整備しているが、守られていない生徒もいる。

② 今後の改善方策

- ・引き続き、HR等を使って再周知や個別での指導を行っていく。
- ・生徒への指導力向上のための研修会の実施。

③ 特記事項

- ・ハラスメント・コンプライアンス研修の実施。
- ・地域社会との交流を深めるためのボランティア活動に参加する。

④ 学校関係者評価委員会コメント

宮下委員：昨今はコンプライアンスと言われることが多く、認識に差異が存在している。自身の概念でコンプライアンスを解釈してしまうため、社会常識との相違が生じやすい。現状、認識の差異で寮生とのやり取りに難航している。

村松委員：保護者の年齢、年代も変わってきているからこそ、生徒の育った環境やルールなども変わってきている。だからこそコンプライアンスを通して生徒自身が学校生活や社会の中で相手のことを思いやって自分の意見を通していけるかが必要な力となる。

和田さん：個別に対応し臨機応変に指導をする。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員的能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・即戦力となる人材を育成できる教員の育成。
- ・教員の指導力向上。

② 今後の改善方策

- ・教員側の技術のみのチェックだけではなく、指導力の確認をするため姉妹校同士での指導力の勉強会を実施する。

③ 特記事項

VR機材を使用しての早期技術習得→国家試験の勉強を早期習得し、残りの時間で即戦力の技術習得のために、シラバスや授業計画の見直しを行う。

④ 学校関係者評価委員会コメント

村松委員:聴覚のみで指導内容を理解するのは難しい傾向がある。また、生徒によって解釈の仕方が異なるため、必ず視覚も用いた授業を実施している。動画を見せるなど視覚で訴えかけを行うことが有効である。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	2
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・目標喪失にならないための授業の工夫・面談強化を行ったが、同じ授業内容を繰り返し行うことで目標喪失する生徒も見受けられる。
- ・退学率の増加。2023 年度 12.4%
- ・国家試験合格率低減。2023 年度 87.5%

② 今後の改善方策

- ・モチベーションが向上するための仕掛けづくり(実習 WEEK・業界セミナー・行事等)
- ・行事ごとにクラス間での振り返りを必ず行う。
- ・国家試験不合格者へのフォローアップ(デジタルアプリ・クラスルームでの過去問発信など)
- ・卒業生の就職先への訪問。同窓会運営強化。

③ 特記事項

- ・卒業生 link・卒業生LINEにて学校情報や求人を発信し、学校と卒業生の繋がりを深める。
- ・就職率美容科 97.7%、全体 96.4%

④ 学校関係者評価委員会コメント

村松委員：長文読解能力に欠如した生徒が増加しているため訓練が必要。国家試験の文言に慣れるよう授業内容に対策を講じる必要がある。

和田さん：筆記試験の際、1行ずつ丁寧に最後まで読むなど指導している。

遠藤由希委員：モチベーション向上のため、現場実習を行うことが大切。定期的に現場に行く等、関連分野と関わりを持つ頻度を上げ、モチベーションを保ち続ける必要がある。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・クラス担任制のため、担任がクラスの問題などの対応を一人で解決しようとしてしまっている。
- ・保護者との情報共有がタイムリーではない。

② 今後の改善方策

- ・自クラス以外の学年担当担任からの生徒への声掛け・面談実施。
- ・保護者へ成績表郵送・欠時管理状況共有の電話掛けを継続実施。行事等へ保護者の参加を促す。
- ・生徒自身が相談しやすい環境づくりをし、クラスや学校に居場所を作りづらい生徒への休憩場所などの設置。
- ・クラスだけでなく学年間での生徒情報共有。

③ 特記事項

- ・スクールソーシャルワーカーとの連携実施予定。
- ・入学前の不安を解消するために入学前アンケートの実施。

④ 学校関係者評価委員会コメント

村松委員：教員の電話対応含め意識改革が必要。上から目線や説教口調の教員がいる場合、冒頭に生徒のことを褒めるなど言葉の言い回しに細心の注意を払う必要がある。実情、「学校からの電話は警戒する」等保護者の方から意見が挙がっている。保護者との連携が主旨であることを失念せず対策を講じるべきである。電話対応のみならず、「綺麗で、かっこよくて、最新の知識がある先生から教わりたい」という声が挙がっている。同時に、身なりも整えることが保護者とのスムーズな連携に繋がると思う。

仙波委員：現場ではスタッフの良い点を挙げていく面談を行い、そのスタッフの存在意義を提示することで意欲向上を図っている。昨今の傾向として、将来の夢が不明確なまま美容学校に進む人が多い印象であり、入学後に違和感を抱く生徒が多い。可能であれば入学後、現場実習を通して成功体験できる機会を増やすとよい。また、多くの美容室を利用し長所短所ともに吸収をすることが大切であり、就職後の活力となる。気に入った美容室に何度も通うことで、自身をサロン側に認知してもらうことができ、就職に繋がる場合もある。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

・新校舎工事に伴い、限られた場所で授業を行ったため、昼食スペースの確保が難しかった。

② 今後の改善方策

・新校舎も整い、最新の環境で授業を実施予定。

・さらに生徒が知識を増やすことができる研修を実施。就職フェスと関連づけた研修も実施予定。

③ 特記事項

・Wi-Fi環境が整い、生徒自身が授業でのスマートフォン利用頻度が上がり、引き出しを増やせるようになった。

・校内設備の保守管理は定期的に行われており、安全且つ適切に運営出来ている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

宮下委員:設備面では、何事も新品が好まれる。リニューアルをする際は食堂をカフェにするなど、オシャレに力を入れている。電子機器の主要度が高いため、Wi-Fiの整備を徹底している。学校も同様ネット環境等はさらによりよく整えていく必要があると思う。

遠藤健委員:進路不明確で入学した生徒に、海外研修を通じて将来の幅広い可能性を見せて頂きたい。

(7)学生 of 受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

なし

2 今後の改善方策

なし

3 特記事項

定員変更し、さらに美容科への入学者が増加した。

4 学校関係者評価委員会コメント

村松委員：高校分野の通信課程では毎日説明会を行っているが、好評である。背景として、生徒も両親もやりたいことがあれば通信課程に進学や転校することに寛容な様子があることが挙げられる。一方、海外の大学進学やスポーツなど活躍する場が多様化しており、自身の学びに合わせ有意義に時間を使うことができる通信課程を選択している生徒もいる。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)の初年度であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

今後も継続した法令遵守が求められる。

② 今後の改善方策

個人情報取り扱いの研修会を定期的を実施。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

遠藤健委員：各企業の方針もあるが、人に対する礼儀が最も重要であるといえる。

仙波委員：業界では、店舗に色々なお客様が来店する中で、個人情報に対するルールを徹底しているからこそ店舗の信頼へ繋がる。生徒も社会に出てからの礼儀・ルールは理解した上で働けるよう、学校での説明は必要に感じる。

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

- ・関連企業とは連携を図っているが、自治体のイベントへの参加回数などを増やし生徒の経験値をあげていく。
- ・生徒へ案内できるボランティア活動のサポートをし、参加回数増やしていく必要がある。

② 今後の改善方策

- ・関係企業や自治体との連携、新たな教育活動・イベントに積極的に参加。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

遠藤由希委員：積極的にイベントに参加をするなど、人脈を広げることに尽力するとよい。相手に興味を持ってもらうようなトークを意識する。コミュニケーション能力を高める方法を模索し実行に移すと将来に役立つ。

宮下委員：人と関わるのが苦手な人は、人前に立つ機会も乏しく人脈拡大は難しい。そのため、そこに対するヒントを出せるような行事を行うと良い。小さなことでも成功体験へとつなげることが重要。

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	4

① 課題

留学生向けの案内ができる場が少ない。

② 今後の改善方策

三幸学園の本部が策定した留学マニュアルに沿った受け入れを行う。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

宮下委員:留学生の受け入れが各業界でも進んでいる。美容師免許に関しても宮城県で留学生採用が行えるとよい。後日インドネシア受け入れ会議に参加予定のため、機会があれば提案してみたい。5年の縛りや賃金問題、就職先問題を解決しなければ受け入れ促進へ繋がらないため今後の課題となる。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

コロナ禍からのICT導入・普及について、若い世代の生徒だからこそ使いこなしている。そのツールを上手く学校側も活用し、生徒のモチベーションを長く継続させる工夫が必要である。

多様化する社会で、学校側・業界側も生徒一人一人に寄り添い個別で対応していくことが必要である。

環境を整えて、より多くの生徒・留学生を受け入れ、東北から業界を盛り上げられるよう生徒を育てていくことが課題である。